

令和2年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	「12年教育（幼小中）の推進」
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 上田 祐二
実施附属学校名	附属旭川中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>【目的】 加速するグローバル化、ダイバシティー社会の中で、他者とともに自分らしさを発揮して活躍できる人材の育成を核として、旭川学校園が協働する取組である。</p> <p>《取組1》 社会的自立や他者の考えを尊重し互いに高め合う基本となる道徳性に着目し、同時に生徒指導上の課題の解消、幼児・児童・生徒の交流促進、教員の意識改革や生徒指導力向上を目指すことで、これから求められる特色ある学校づくりを実践する。</p> <p>《取組2》 ICTなどの教育機器の活用し、不登校支援や別室登校の生徒への学習権保障について実践検証を進める。</p> <p>《取組3》 旭川学校園における取組を、効果的に道北及び道内に広めるための「広域分散型」に合わせた授業公開や教員研修について実践を進める。</p> <p>【取組内容】</p> <p>1 「特別の教科 道徳」の時間の授業公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会・セミナーでの授業公開 ・識者による指導・助言 ・遠隔システムによる日本全国へのライブ授業配信 ・生徒への道徳性検査の実施 <p>2 遠隔システムを用いた授業の配信（生徒の自宅へ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年男子生徒1名（～1月）、第1学年女子生徒1名（12月）に対して実施。 <p>3 遠隔システムを用いた研修の実施、遠隔合同授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回、北海道教育委員会とタイアップし実施。 ・遠隔合同授業（技術、数学）は、十勝管内の中学校とオホーツク管内の中学校と接続し、6月、11月、2月に実施。 ・この様子を留萌管内・宗谷管内の中学校がモニタリング。
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>【成果】</p> <p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/06 授業力向上セミナー 第1学年授業公開 北海道から大阪までの参加者、道徳の授業のあり方について『授業の動画公開』、Zoomでつなぎ研究協議を行った。 助言者の水上教授から本校に加え、道内の優れた実践例

	<p>を紹介していただくとともにご助言をいただき、大学と附属学校が連携した取組を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅費と時間をかけずに、全国の教員に本校の実践を見ていただく手法を実践することができた。 <p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方の生徒及び保護者から高い評価を得ている。 ・年度当初から出席停止としていた第2学年の男子生徒は、1月から登校している。 <p>3 参加者の募集、授業の動画配信（期間限定）、指導案・I D等の送信、Zoomでつなぎライブでの研究協議という方法の1つを確立できた。</p> <p>遠隔合同授業については、当該校の生徒及び教員、関係教育局から高い評価を得ており、次年度以降の本実践の継続を希望されている。</p> <p>【課題（継続事項）】</p> <p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、来校型の授業公開を実施することができなかった。そのため、50分の授業を編集してweb掲載したが、この方法で適切か否かの評価が求められる。 ・諸検査の実施 <p>昨年2社を実施したところであるが、調査項目の内容や指標を検討した結果、附属小学校で実施している検査とは別社の検査が本校にとっては適切であることが分かった。</p> <p>今後、附属小学校からの接続を踏まえたモニタリングの在り方を検討する必要がある。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>德育を基盤としながらも、対人スキルや自己調整能力に大きく関わる非認知能力の育成も求められている。</p> <p>このような現状を踏まえると、本事業を継続し、関連する資質や能力を効果的に育成するモデルを示すことが求められると考えている。</p> <p>地域が一体となって子どもを育てる気運が高まる中、附属旭川学校園の幼小中が一体となって、12年間と長いスパンで子どもを育てる視点からは、大学（旭川キャンパス）の教員等の専門的な見地を踏まえた取組も求められると考えている。</p> <p>今後は、“2 諸検査の実施”に関わるデータの分析や、学問的視座の視点（発達心理の側面など）からも大学（旭川キャンパス）と連携し、本事業を充実させていくことが大切であると考えている。</p>
<p>事業の公表状況</p>	<p>3について</p>

<p>(事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道通信」令和2年6月26日(技術) ・「北海道通信」令和2年12月16日(技術) ・「北海道通信」令和3年2月に掲載予定(数学) ・本校webページ 【お知らせ】令和2年6月22日(技術) ・本校webページ 【お知らせ】令和2年11月26日(技術) ・本校webページ 【お知らせ】令和3年2月10日(数学)
---	--

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。